

- P6 新時代旋風
- P8 ブロック活動だより（島嶼支部会）
- P9 専門委員会リレー（利用者支援検討委員会）
- P11 軽費分科会トピックス
- P12 センター分科会トピックス
- P13 東京ケアリーダーズ活動紹介
- P14 職員研修委員会トピックス
- P15 私の心に残るエピソード



P4 東京ケアリーダーズが行く！ うわさの施設 その5 日常の調理で得た着想をメニューに活用



P7

つながれ・ひろがれ・地域の輪
in 東京について



P10

養護老人ホームと
地域社会（高幡台老人ホーム）

Facebook
更新中!



高齢協
ウェブサイト



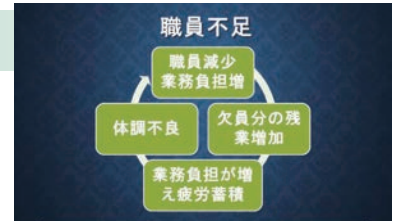
特集 P2

離職率 42.5%⇒ 2.5%への取り組み



「起」 危機的状況に陥って

2019年上半期の介護事業所の倒産件数は過去最高を記録し、人材不足が最大の要因であるとみられています。人材不足が続くことにより、残っている職員にその辞めた分の仕事が追加され、過労・精神的ダメージによるメンタル不全そして、欠勤、休職、退職……。



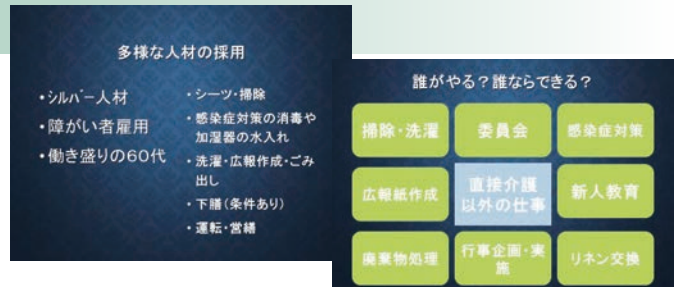
補充のために採用しても、もともと不足している状況のなか新規採用職員の指導に時間が割けず、中途半端な状況で採用された職員の不安が重なり、結果早期退職の連鎖が起こります。

当施設では、平成26年度に退職者数18人、退職率42.5%と危機的状況に陥っていました。

「承」 どうしたらいいか！

1 業務仕分けと分担

何かを変えなければ、永遠にこの負のスパイラルから逃れられない、以後も介護の専門職の採用難の状況は変わらないであろう。そこで、介護職の仕事を洗い出し、仕分けを行いました。



シーツの交換、洗濯全般（洗濯物の回収、洗濯機・乾燥機の操作、洗濯物配り）、食事の補助（エプロン・おしぼり配り、配膳、片付け、食後の清掃）、広報紙の作成、感染症対策（朝夕2回の加湿器の水補充・施設内の消毒）、フロアで出た廃棄物等の運び出しなど……。ここにあげた業務は、注意点等をしっかり伝えることができれば、やってもらえる人はいるのではないかと。それを前提に、仕分けた業務を誰に担って貰えるかを考え、シルバー人材センター、障がい者、働き盛りの60代の3つに振分けました。

2 整理・整頓・廃棄（断・捨・離）

介護職員が夜遅くまで残って作った立派な飾り物の山、パンクや部品の欠損で使えない大量の車椅子、重要そうな書類の入った段ボール……。「保管もコスト！」その考えに立ち、責任ある立場の者が「いつか使う」「どこかでつかう」「捨てちゃうと買ってくれない」の「三つの「かも」」の払拭し鋭断する必要があったと考えました。

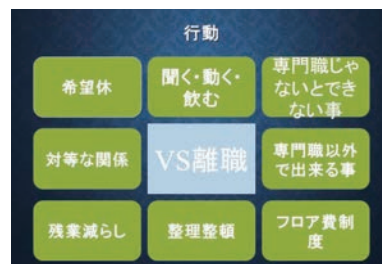
平成27年度に廃棄した量は、4トンロングタイプのトラック3台分、12トンを超えました。この断捨離の決行により、事務室・家族の面会スペース・営繕担当の作業室など新たなスペースが生み出されました。さらに



は、整理・整頓習慣が身についたことで、倉庫以外のスペースの整備も進み、探す手間や時間が大幅に削減されました。断捨離によってもたらされた「見えないコスト削減効果」は計り知れません。その後も、毎年4トン以上の粗大ごみを廃棄していますが、「無くて困った」いう声は聞こえてきませんでした。

3 一般職とのコミュニケーション

仕事の仕分け・施設内の整理整頓と並行してすすめたのは、「職員の気持ち」をくみ取る努力でした。当法人では、平成22年度から人事考課制度の試行が始まり、平成28年度から本格的に開始となりました。その制度の一つとして、役職者（主任）と一般職員が話す機会を定期的に設けています。しかし、それにとらわれず、夜勤中や休憩時間などのちょっとした隙間を利用したり、場合によっては外での「呑コミュニケーション」で、困っていること・不満や不安を早い段階で聞き、吐き出すことができます。なかには、業務改善に結びつく貴重な提案・意見を聞くこともあります。



「転（展）」介護職員の意欲向上

仕事の仕分けと人員の補充が進むと、少しずつQOLの向上に目が向けられるようになりました。「天気がいいから、散歩行く?」「おやつでも買いこようか?」「暑いからコンビニに行ってアイスでも買ってこようか」……その日の天気や出勤人数などで、介護職員と利用者の時間が活かせるよう、フロア費制度を導入しました。この制度がきっかけとなり、「あのフロアで東京ドームの巨人戦を観に行ったから、こっちはスカイツリーに行こう」など、大小様々なイベント開催が活発になり少しずつ悪循環が解消されていきました。



これまで現金を取り扱う場合、個々の財産状況を家族・相談員に確認し、その後、銀行から引き出し、通帳記帳に会計処理など、非常に煩雑な手続きが必要でした。その手間が面倒で、諦めたり、職員が自腹で対応するなどの状況がありました。自由度の高いフロア費制度は、介護職員にとって



も入居者のQOL向上にとっても、非常に大きなものでありました。



「結」今そして……これから

平成29年度、1人（2.5%）まで低減された退職者数の増加が、平成30年の秋以降、徐々に増え、最終的に5名（12.5%）となりました。



様々な取り組みを進めていく中で、新しいやり方に馴染めない、どうしても馬が合わない、結婚・家族介護のための転居のように、避けようのない退職もあります。重要なのは、退職者が出てしまったとき、理由を明確にして、「改善の余地があるのかなのか?」「防ぐ事が出来たのか?」改善の可能性がある場合は、同じような理由での退職者を出さないために、どうするかを追求していくことが必要です。求める人材を確保することが極めて難しい今日、介護職員がやりがいを持って働き続けられる環境づくりを常に模索し続けることが、介護職員・利用者双方の幸せに寄与する唯一の方法であると考えています。

東京ケアリーダーズが行く！うわさの施設

東京都高齢者福祉施設協議会の数ある会員（約1200施設・事業所）のうち、表彰や推薦など、名誉ある経験をもつ施設を紹介するコーナー。毎回、「うわさ」の施設を東京ケアリーダーズが訪問し、直接お話を伺います。

その5

2018年開催「東京の介護ってすばらしい！グランプリ」ランチ部門 最優秀賞受賞

社会福祉法人 たま紫水会 指定介護老人福祉施設 みたか紫水園

日常の調理で得た着想をメニューに活用



高齢者福祉施設での日常のさまざまな場面にスポットライトを当てながら、介護の魅力を発信する「東京の介護ってすばらしい！グランプリ」。「冬のイベント食」をテーマに開催された2018年度のランチ部門では、季節感を感じられる食材と色合い、随所にみられる高齢者がおいしく食べられる工夫、丁寧な調理などで審査員から高評価を得た、みたか紫水園が最優秀賞を受賞しました。

今回の取材では、同施設の管理栄養士の井村亮太さんにお話を伺いました。

ランチ部門の 審査基準

おいしさ、高齢者にとっての食べやすさ、栄養バランス、盛り付けの彩り、オリジナリティ、調理過程など



——グランプリに参加した感想をお聞かせください

私は調理審査には一人で参加していたのですが、他の施設はチームで参加されていて、段取りが良く調理も手が込んでいて、チームワークがすごいと感じました。

また、私では思いつかないような発想で調理する施設もあり、自施設で作るメニューの参考になり、とても勉強になりました。

——普段のメニュー作りで心がけていることをお聞かせください

特養内は空調により年中同じような気温で過ごしており、ご利用者は頻繁には外出できないため、できるだけ季節感を感じられるメニュー作りをしています。

いろいろなメニューを試した結果、高齢者は和食を好まれる傾向がありましたので、肉と魚などの食材を順繰りにメインに据える、調理のバリエーションを増やすなどにより、飽きを感じさせず食事を楽しんでいただくようにしています。

——今回のメニューのコンセプトと工夫をお聞かせください

冬のイベント食がテーマでしたので、ぶり大根をメインにしました。ぶりは固くなりやすく高齢者には飲み込みづらいため、食感を残しつつ食べやすくなるように丁寧にたたきました。また、味が染みにくい食材ですので、大葉やみそを混ぜてくさみを取りつつ味をしみこませました。

——受賞の感想をお聞かせください

前年度も参加しましたが入賞できなかった中で、本年の最優秀賞はありがたく思います。日頃から施

設でどうしたら満足いただけるかを考えていることが、成果につながったと感じました。管理栄養士は施設では裏方の職種ですが、今回はその取り組みを知ってもらえるいい機会だったと感じます。



——受賞後、まわりからの反応はいかがでしたか？

1月に東京新聞でグランプリ最優秀賞受賞者インタビューが掲載されたのですが、ご利用者やそのご家族、同僚や私自身の家族から記事を読んだと声をかけてもらえたり、切り抜きを持ってきたりして頂けました。

——施設内での連携についてお聞かせください

定期的に給食会議を開いています。調理ではメニューをつくる私と調理師では考え方の差が出ますので、話し合い、調整して改善するサイクルを心がけています。また、介護職には食事の状況や感想を聞いてもらい、メニューに反映しています。

——地域と連携した取り組みはありますか？

近隣の大学病院や老健などの栄養士と協働して地域向けの栄養講座を実施しています。これまでは脱水や栄養補助食品などのテーマで開催しました。

それぞれの施設の栄養士にどのようなことができるかといった情報共有を行い、できる範囲を広げています。

——今後の目標をお聞かせください

ご利用者のその日の気分によって食べたいものもあると思いますので、オプションメニューを導入していきたいと思います。また、食事は高齢者の楽しみの中で大きなウェイトを占めますので、普段とは違うシチュエーションで楽しめる企画も考えたいと思います。

——お話を伺って、管理栄養士は食事を通じてご利用者に寄り添っていただけていると感じました。こうした審査会で他施設から得た学びを施設に還元することで、個々の施設の向上、ひいては業界全体のレベルアップにつながるのだと思います。また、こうした取り組みを外部に発信することもとても大切だと感じます。本日はありがとうございました。



社会福祉法人たま紫水会 指定介護老人福祉施設 みたか紫水園

所在地：三鷹市新川 5-6-31 TEL：0422-40-7201 FAX：0422-40-7205

■取材 東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ

高橋 雅之（社会福祉法人たま紫水会 指定介護老人福祉施設 みたか紫水園 介護職員）

■記録・編集 東京新聞 木下聡文

新時代旋風

新時代委員会の新たな取り組み

社会福祉法人多摩大和園 やまと苑
苑長 ちさか まき
千坂 真樹

新時代委員会の新たな活動として、人材育成研修委員会主催の研修に参画することになりました。本研修会は、毎年恒例の合宿研修として2007年から通算22回を数える歴史あるもので、7月16日・17日に青梅のおくたま路で開催され、新時代委員2名も同行しました。

高齢者福祉施設におけるチームマネジメントを学ぶ研修会

今回は、『変化の中で学び、考え、成長する』をテーマに、(株)エイデル研究所の丹羽勝氏による熱のこもったご指導の下、40名が参加・受講しました。

1日目は、オリエンテーションに始まり、リーダーシップとマネジメントについての講義を踏まえ、介護現場の問題解決に関するワークショップを行いました。また、『福祉現場に生かせる先進企業における部下育成』と題して、江口武春氏から日産自動車(株)人事部での人材育成のご経験をお話し頂きました。

2日目は、前日の問題解決を踏まえ、グループワークを中心にロールプレイングを行い、各グループが活発な議論を交わしました。お互いの現場が抱える課題を共有し、前向きに積極的に模索し、様々な視点や考えに触れ、新たな学びを習得されたことと思います。

新時代委員として・・・

チームマネジメントの“身近な先輩”として、受講生の皆様のお役に立ちたいと考えています。今後は残り2回のフォローアップ・グレードアップ研修に向けて、日々の実践に反映されることを期待しています。



『誰もが安心して暮らせるまち』を目指して!

～つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO～

地域包括ケア推進委員会 つながれ ひろがれ 地域の輪 in TOKYO ワーキングチーム

品川区立中延特別養護老人ホーム 施設長 小山 正子

9月～11月にかけて「つながれ ひろがれ ちいきの輪」が、都内の社会福祉法人を中心として一斉に展開されます。今年で4回目を迎えるキャンペーンですが、全地域での開催を目指しています。年度によりイベント数の増減はありますが、キャンペーンに参加する地域は増加傾向にあります。

高齢者福祉施設・事業所は、それぞれの地域において、住民や関係機関と協力しながら、様々な活動を展開しています。しかしながら、その活動が必ずしも地域に貢献していると認識されている訳ではないのが現状で、その要因の一つに発信不足が考えられます。私たち社会福祉法人の職員は「出来て当たり前」と考えてしまい、自分たちの行動を周囲に伝えるという行為に謙虚になり過ぎていたのかもしれない。そこで、この『“つなひろ” キャンペーン』で一斉に発信し、広く知って頂くことも必要ではないかと考えスタートしたイベントです。

年々『つなひろ』が目指している趣旨に近づいている気がします。『つなひろ』の取り組みを通し、地域のニーズを把握し、専門性を発揮しながら、地域の高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるネットワークを築けるようにしたいと思っています。

今年も見学会を予定しています。他の施設・事業所の取り組みに刺激を受けながら、我が町の地域力向上のため一緒に前進しませんか!



詳細は・・・東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイトへ!



島嶼支部会の活動について



東京都高齢者福祉施設協議会 中央ブロック会 島嶼支部会

支部長 木戸 浩

(社会福祉法人椿の里 大島老人ホーム 施設長)

島嶼支部会は、中央ブロック会に所属し東京島嶼の大島、新島、神津島、三宅島、八丈島の5島にある高齢者施設、在宅事業所の5法人で構成されています。

❀ 中央ブロック会とともに活動

支部会は、年3回、高齢者福祉施設協議会総会の前日の午前に定例会議を開催し、主に島嶼地域特異な課題検討や情報交換の場としております。また、午後からは中央ブロック会の皆様に島嶼支部会議の日程に合わせて中央ブロック会議を開催して頂き、都内の法人からの情報交換の場とさせて頂いております。

支部会の活動としては、大島、新島、神津島から三宅島、八丈島には東京を經由しなければ行けない等の各島間の交通アクセスの関係から、年3回の支部会議が主な活動であり、他のブロック会のような研修会等の連携した企画を行っていないため、ここでは島嶼地域の抱える問題、課題等について紹介します。

❀ 島嶼が抱える経営的課題

介護人材不足は全国的に深刻な状況であります。島嶼地域においても例外ではなく、特に有資格者の確保には大変苦慮しております。また、経営面においても、介護給付費の地域係数はその他の地域に区分されますが、最低賃金は東京都に準じなければなりません。給食材料、消耗品等多くの物資、燃料、保守業者等々は島外からとなるため、経費は都内より割高になる等、どの法人も収支バランスを取ることが困難な状況にあります。

そのような環境ではあります。各法人とも島に一つしかない高齢者施設、事業所であるため、島民の皆様の期待に応えるべく、今後、島嶼支部会としてどのような活動をしていけるか検討していきたいと考えています。

専門委員会リレートーク!

東京都高齢者福祉施設協議会内の専門委員会（※）に所属する委員から、委員会の活動内容や、ご自身の法人・施設・事業所でのホットな話題、新しい取り組み、他施設に教えたい情報を伝えるページです。

今回は、利用者支援検討委員会の小和瀬委員長(社会福祉法人聖風会 ゆうあいの郷六月)からのご報告です。

社会福祉法人聖風会 ゆうあいの郷六月 施設長
利用者支援検討委員会 委員長 小和瀬 孝雄

委員会紹介

利用者支援検討委員会は、文字通り利用者支援を主とする委員会ですが、東社協に数ある委員会の中で介護現場からの声とサービスを受容される利用者、家族の声を聞きながら多角的視点から課題解決に取り組む委員会であると自負しております。

活動の内容

目下、委員会の総力をあげて「不適切なケア」撲滅のための取り組みを進めています。この件につきましては、会員350近くの施設からアンケートの回答をいただき「不適切ケア」について皆様の関心が高いこと、そして「虐待ゼロ」へ向けた熱心な活動を報告できるよう努めています。

追加アンケートを実施し、委員会としての考察を加えながら、利用者支援検討委員会の成果物として、年内中に不適切なケア防止についての小冊子を発行いたします。

過去の主な活動（抜粋）

- 平成21年度 介護現場での対応困難ケースについて・・・事例集作成
- 平成24年度 高齢者施設における未収金に関する状況調査
- 平成26年度 「やり甲斐アンケート」の実施・・・報告書作成と配布
- 平成27年度 高齢者の生活を守る「成年後見人制度とは」研修会
- 平成28年度 高齢協会員倫理綱領の改定
- 平成29年度 「不適切ケアに関するアンケート」実施
「不適切なケアからみつめる 施設における虐待ゼロへの実践」研修会

予定されている取り組み

「看取りについて」アンケートを実施させていただきます。施設での「看取り」にあたり実施する施設側が抱える課題や看取り加算などについても調査させていただき、実情をお知らせしたいと思います。

※制度検討委員会、経営検討委員会、施設管理検討委員会、利用者支援検討委員会、人材対策委員会、災害対策検討委員会の6つの委員会の総称。各委員会には都内各地域の高齢者福祉施設より20名前後が委員として集まり、それぞれのテーマに沿った協議や研修会の開催等を行っています。

養護老人ホームと地域社会

●社会福祉法人 博泉会
高幡台老人ホーム 生活相談員 大垣 謙作



▶ 養護の実態の変化と課題 ◀

高幡台老人ホームは日野市にある養護老人ホームですが、近年では介助が必要なご利用者が多くなっていることが特徴です。

職員配置は従来通りですが、業務量が増加し、娯楽活動等QOLに係る支援にあてられていた時間が、日常生活の介助へ取って代わられているという課題も生まれています。

また、ご利用者の中には、遠方の自治体から措置入所され、これまでの地域や家族との関係が希薄になる方も多く、ホーム内や地域等、新しい環境での繋がりを作るような支援も一層必要となっています。

▶ 社会福祉法人ネットワーク ◀

地域と繋がる活動の例として、市内の社協を中心に社会福祉法人が集まり、地域貢献の具体的な活動を話し合い、実際に活動を行う社会福祉法人ネットワークの活動があります。

活動内容は施設によって様々ですが、例えば、独居生活の高齢者へ施設食堂を開放し食事を提供する、ご家族の介護をされている方へ車椅子貸出を行う等の活動があります。ご利用者へも、このような活動を通し、地域と繋がる良い機会を提供できるのではと感じています。また、このような地域社会の流れを受け、特殊な生活歴を持つご利用者が多い養護老人ホームとして、地域へ働きかけるといった活動が一層重要になってくるのではと感じています。



車椅子の貸出の様子



いつまでも元気で 自立した生活をサポート



●社会福祉法人浴風会 軽費老人ホームA型 松風園
ケアワーカー 健康運動指導士 寺林 祐貴

私が在職する浴風会松風園は軽費老人ホームA型で、常時200名の利用者が在籍しています。我が国の健康長寿化は当園でも同様に、平均年齢は84歳になり、それに伴って要介護認定を受けられる方達も年々増加傾向にあり3割から4割になろうとしています。

当園では従来から介護予防として脳トレや、作品作り、クラブ活動として卓球や和太鼓、カラオケなどご自身の生きがいや健康維持のために多くの方が参加されています。

しかし従来プログラムに参加できない方や高齢化が進むにつれて、心身の衰えを感じる方が増えていきました。そこで身体活動性の維持向上、引きこもりがちな利用者にも社会参加機会として利用して頂くため、配置基準にはない機能訓練を行える専任者を雇用して積極的なリハビリテーションに取り組むことといたしました。

▶ 運動内容、効果 ◀

私が行っている施設内機能訓練ではストレッチやボールやマット、マシンを使った運動や、自転車こぎやポールウォーキングのほか、ゴロ卓球やグラウンドゴルフ、パラリンピックの種目であるボッチャなどのスポーツもメニューや対象者を変えて毎日提供しています。基本的に集団で運動を行っており、顔を見合わせることで利用者同士での盛り上がりや笑顔が多く表れ、運動能力だけでなくコミュニケーションの促進にもつながっています。機能訓練の参加がきっかけで自室でも簡単な運動を行うようになった利用者も多くいらっしゃいます。

今後はこの取り組みを客観的に評価できる仕組みを確立すれば、他施設でも手軽に導入できるようになると思いますので、今後の課題として取り組んでいきたいと考えています。



デイサービス課題検討委員会について

●文京湯島高齢者在宅サービスセンター、文京昭和高齢者在宅サービスセンター
東京都高齢者福祉施設協議会 センター分科会 デイサービス課題検討委員会

みやざき かすみ
宮崎 夏純

「デイサービス課題検討委員会」では、年に数回の分会を開催し、デイサービスに関する情報共有の機会やグループディスカッションの企画等を行っています。

分会等で会員の皆さまの声を聞き、今後どのような委員会のあり方が必要かを検討する中で、デイサービスは、身体面・認知面も異なる方へのケアやサービスを行うだけでなく、そのサービスの内容も多岐に渡る為、得られる効果が利用する人たちも、働く人も実感しにくい現状があることを感じていました。

そこで、「デイサービス課題検討委員会」では、平成28年より東京大学（大学院医学系研究科 地域看護学 講師）の成瀬昂先生のお力を借りながら、第三者の視点から考える「デイサービス可視化事業」をすすめて参りました。3年目に入った現在、成瀬先生のご協力もあり、今まで漠然と捉えられていたデイサービスの機能が、客観的な指標を用いてまとめられてきました。誰にでも分かる客観的な指標を用いて価値を評価出来ることは、通所介護の特殊性や重要性を説明できるだけでなく、働いている人たちが自分の仕事の価値を再発見する事にも繋がるのではないかと期待しています。今後も分会などを通して、これらの情報を発信していきます。



東京ケアリーダーズ

Tokyo Care Leaders

活動紹介
No.6

私達、こんな活動してきました!

皆さんこんにちは！ 東京ケアリーダーズです。

これまで私たちは、歌やダンスなどを交えて福祉関連のイベントにおいて、介護の魅力をアピールしてきました。今後は活動の幅を広げるべく、そしてもっと多くの人達にその魅力を知ってもらう為に、小学生等の未来を担う方をターゲットに介護の魅力をプレゼンする方法を模索しています。

若い世代と一緒に今の介護を盛り上げていきたいと思いますので応援の程宜しくお願い致します！
また、東京ケアリーダーズに新しい仲間が加わってくれました。



みんなで頑張っていきますのでご声援、応援の程
よろしくお願いします!

左から あかね苑
偕楽園ホーム
シャローム東久留米
泰山

荒井裕介さん
上村那智さん
小林祥子さん
安部彩香さん



東京ケアリーダーズ facebook

毎週更新中!



社会福祉法人泉陽会 新町光陽苑
東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ
照喜名 竜彦



職員研修委員会 生活相談員研修委員会

●生活相談員研修委員会 代表幹事
(社会福祉法人洛和福祉会 特別養護老人ホーム洛和ヴィラ文京春日 副施設長)

たに なおき
谿 直樹

生活相談員研修委員会は、都内の特養（12ブロック）と養護分科会、軽費分科会の生活相談員が主で構成されています。各ブロックから3名程度の幹事を選出し、年に5回集まって、研修の打ち合わせや福祉の動向などを話し合うほか、高齢協主催の様々なイベントにも積極的に参加しています。

▶ 4つの研修と2つの小委員会を実施 ◀

委員会では、4つの研修と2つの小委員会を軸に毎年活動しています。

1つ目はソーシャルワークアカデミーです。5年目ぐらいまでの生活相談員を対象にした研修会で、今年度はジェネラリストソーシャルワークを通年を通して学んでいます。

2つ目はソーシャルワーク研修会です。座学での研修会から、カフェスタイルなど、研修という一般的な枠にとらわれずに様々な形で実施しています。

3つ目はリスクマネジメント研修会です。施設内に潜むリスクマネジメントを生活相談員の立場でどう対応するかなど、とても役立つ研修会となっています。

4つ目はサービスマナー研修です。こちらは介護職員研修委員会と合同で行なっております。対人援助を行う上での基礎であり、非常に大切なことを学ぶ研修会です。

小委員会は様々な調査分析を主に行なっているソーシャルワークヴィジョン検討小委員会と、ソーシャルワークの課題を研究するソーシャルワーク研究検討小委員会の2つがあります。

▶ 年度末に200名の生活相談員が集まる全体会 ◀

そして、年度末には、全体会として、1日の研修会を開催しております。テーマは年によって異なりますが、毎年約200名の生活相談員が参加しています。

施設の軸となる生活相談員の力量を上げることを目的に、役立つ研修会を企画していますので、ぜひ足を運んでください！



昨年度の全体会の様子

私の心に残る エピソード

社会福祉法人一誠会 特別養護老人ホーム偕楽園ホーム

理学療法士 佐々木 要

元旦も音楽体操 ニューイヤーコンサート

一緒に笑うと、いっぱい楽しい——偕楽園ホームでは毎週、火曜コンサートと称して、理学療法士である私、そしてピアノボランティアさん達が力を合わせて音楽体操を開催し、毎回40名様近いご利用者を訓練室にお迎えしています。

「なんでもないふだんの日」を「心待ちにする宝物」に変えたい。そんな思いで7日毎の開催、30日毎のプログラム変更にこだわってきました。

そして何と！ 本年1月1日（火）の火曜コンサートはお休みどころか、ニューイヤーコンサートとして開催されました。「音楽でつくる愛情のスープ」ならぬ「音楽でつくる愛のお雑煮」を一生懸命準備し、心も体も温まって頂きました。

5年目…会議に夜練、ボランティアさんと私も頑張ってきましたが、「努力」はたし算、「協力」はかけ算。偕楽園ホームの多職種スクラムがあってこそこの活動です。

この冬も、スタッフの皆の努力により感染症が蔓延する事なく、開放的な空気の中でニューイヤーコンサートを開催できました。この2019年の元旦の感動を、偕楽園ホームの輝く記念碑の一つとして人々に知って頂きたく、ここに綴りました。

これからも。夢こそが、私たち偕楽園ホームの原動力です。



当日は法人内の別施設からもお客様がみえ、50名様をこえる大盛況となりました

編集後記

特集の記事は、毎回参考になっっています。「この頃は、取り入れていきたい」とか、「朝礼で話し、一緒に考えよう」など活用しています。

今回の特集「離職率42.5% ↓25%への取組」では「介護職員がやりがいを持って働き続けられる環境づくりを常に模索し続ける」が結びでした。

前回の特集では、「自分が働きやすい職場にしていこう」との記事でした。

職員の思いを大切に受け止め、管理者（私）ができることを模索していくことの大切さを感じました。職員だけでなく、対人関係すべてに通ずるものだと思う。思うことだけでなく、行動で示していくことと感じました。

こうした会員施設の取組や職員の取組は、QOLの向上をもたらすものです。さらには、介護業界全体のレベルアップにつなげていきたいと感じました。

皆さんとともに、取り組んでいきましょう！

社会福祉法人 泉陽会

新日光陽苑

施設長 高橋三行

大募集中！！



目指せ
グランプリ！！

東京の介護って素晴らしい！ グランプリ開催要項！！

募集部門

メッセージ部門 / ランチ部門 / ホームページ部門

賞金

最優秀賞

5万円

優秀賞

3万円

入賞

1万円

※部門ごとに決定します
※最優秀賞1作、優秀賞2作、
入賞3作を予定しています
※メッセージ部門のみ、最優秀賞
1作・優秀賞2作の予定です。

応募方法

以下のサイトより必要事項をご記入のうえ、令和元年10月31日(木)までにお申込みください。

【東京都高齢者福祉施設協議会ホームページ】

<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

★「東京 高齢協議会」で検索！ ページ内の「お知らせ」コーナーをご覧ください。



応募期間

令和元年 9月2日(月) ~ 令和元年 10月31日(木)

各部門の優秀作品を発表します

表彰式

とき：令和2年1月26日(日)

ところ：江戸東京博物館大ホール (JR線・地下鉄線「両国駅」)

※どなたでもご参加いただけます。参加申込みは後日高齢協 HP より行います。



主催○社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 (情報・広報室)

問合せ○社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

TEL : 03-3268-7172 FAX : 03-3268-0635 メール : kourei@tcsw.tvac.or.jp

URL : <https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

